



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2021年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

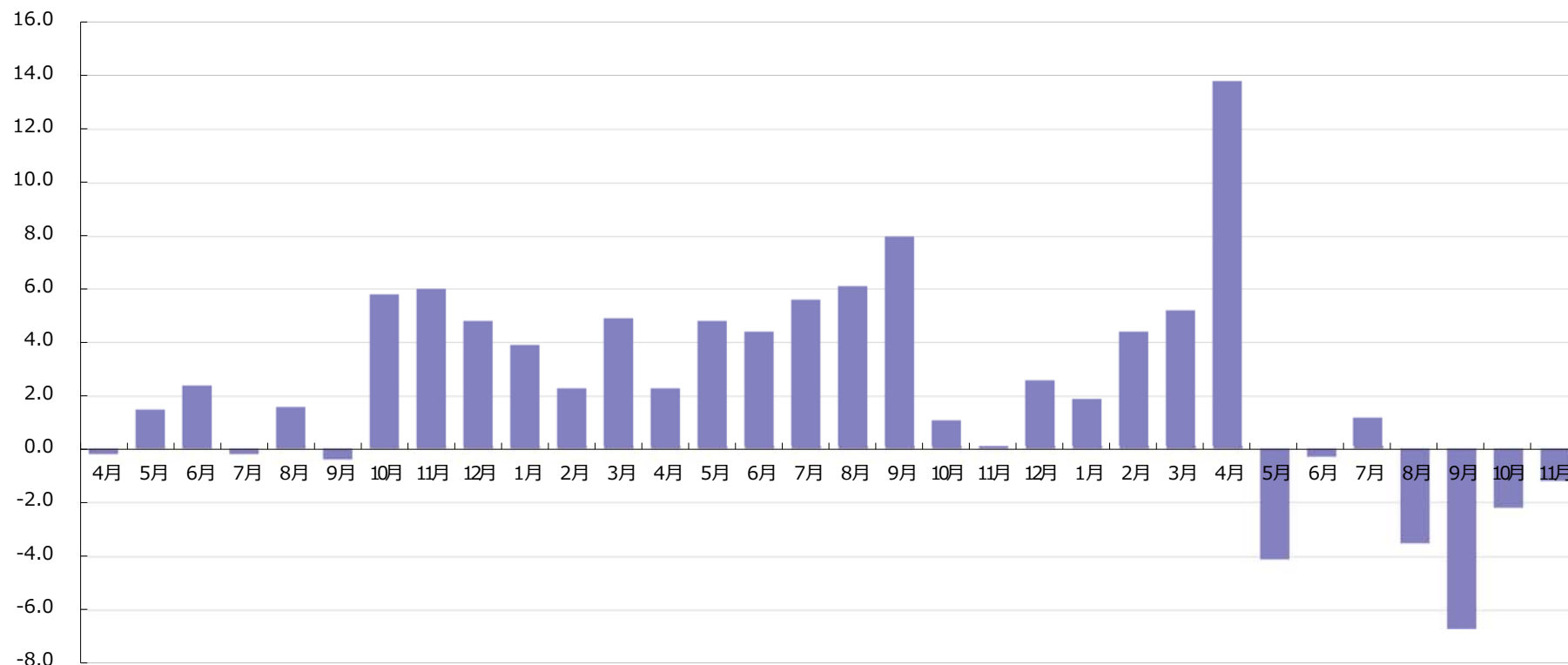
2021年2月8日

2021年3月期第3四半期 決算概要

2021年3月期第3四半期の事業環境

情報サービス売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2020年4月から11月の月別売上高は、4月と7月を除き前年同月比で減少しており、新型コロナウイルス感染症による影響が継続していると推察される。

2021年3月期第3四半期総括

売上高、利益面ともに過去最高、前年同期比で増収増益

売上高	: <u>4,691</u> 百万円	前期比	3.0%増		
営業利益	: <u>712</u> 百万円	前期比	4.4%増	利益率	15.2%
経常利益	: <u>746</u> 百万円	前期比	1.5%増	利益率	15.9%
当期純利益	: <u>528</u> 百万円	前期比	2.8%増		

受注高は過去2位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>4,598</u> 百万円	前期比	2.0%減		
受注残高	: <u>2,252</u> 百万円	前期比	3.3%増		

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 宇宙先端システムB Fの売上高比率が大幅に増加し、モバイルネットワークB F、インターネットB Fが大幅に減少するなど需要構造の変化は継続している。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により受注高が前年同期比で減少しているが、当第3四半期会計期間では前期比で増加に転じ、回復傾向にある。

第3四半期損益計算書

	2020年3月期第3四半期 (百万円)	2021年3月期第3四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,553	4,691	103.0	—	—
売上原価	3,244	3,362	103.6	—	—
売上総利益	1,308	1,328	101.5	—	—
販売管理費	626	615	98.3	—	—
営業利益 (営業利益率)	682 (15.0%)	712 (15.2%)	104.4	—	—
経常利益 (経常利益率)	735 (16.2%)	746 (15.9%)	101.5	—	—
当期純利益	514	528	102.8	—	—

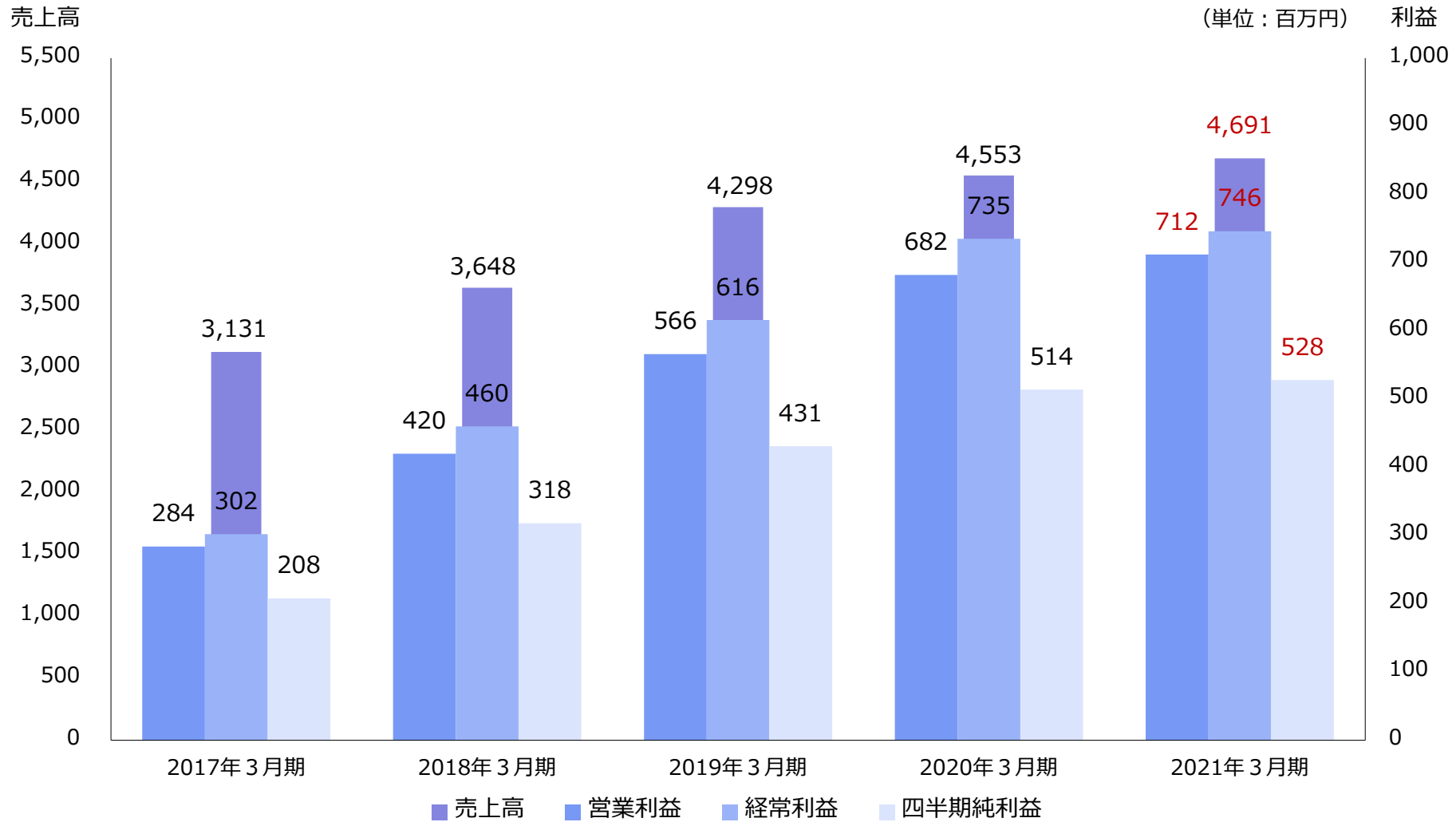
売上原価 社員数の増加と昇給により人件費が増加、外注費と仕入高も増加
(外注費 14.5億円、前年同期比2.0%増、売上高外注比率31.0%、前期31.3%)

販売管理費 採用活動強化により採用費が大幅に増加、一方、研究開発費が大幅に減少
(研究開発費は35百万円で、前年同期比で39.0%減少)

営業外損益 前年同期と比較し、研究開発の補助金収入が減少 (前年同期は15百万円)

第3四半期決算業績推移（過去5年）

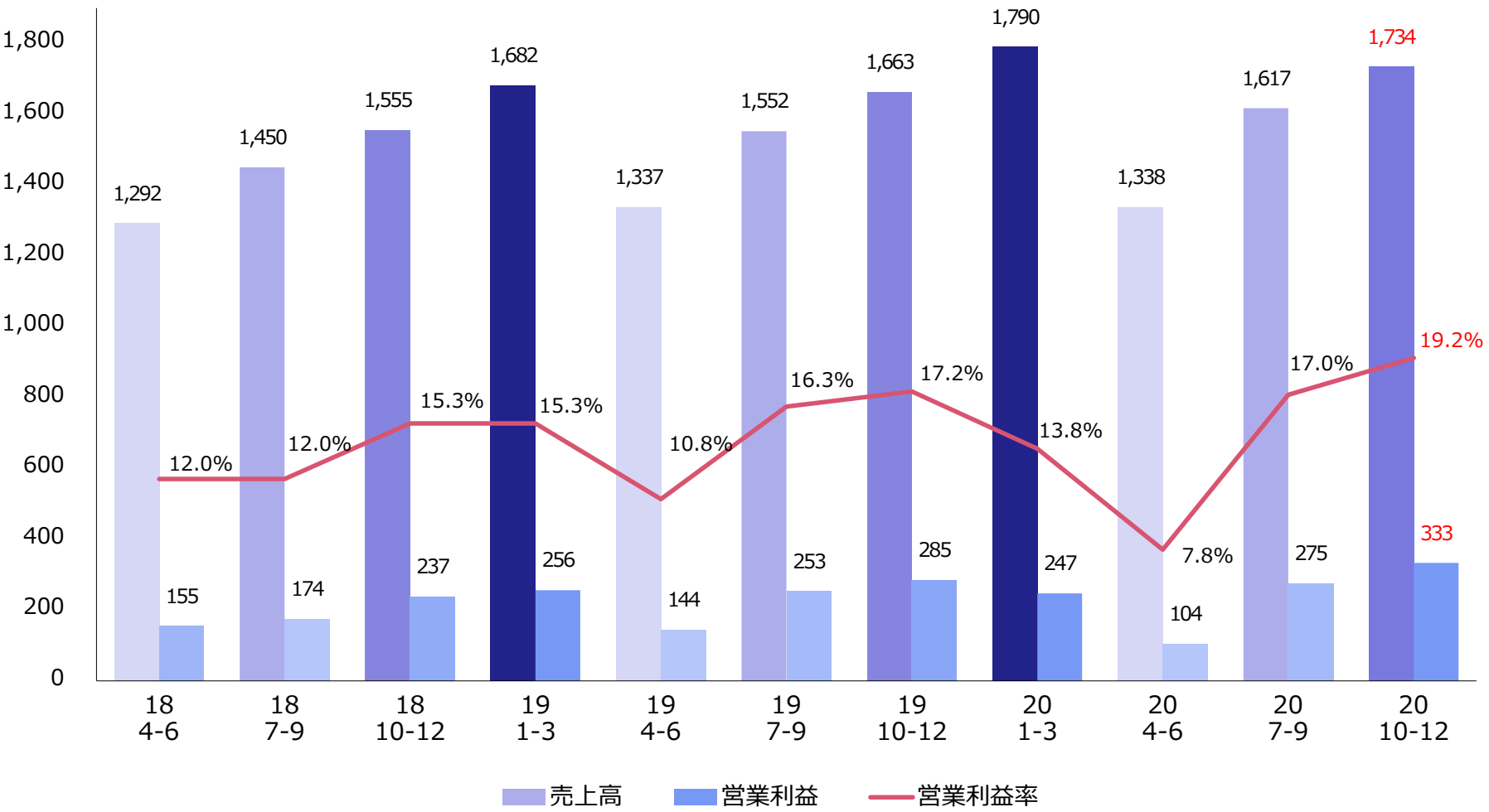
売上高、経常利益、営業利益ともに過去最高



四半期業績推移 (P L)

第1四半期は増収減益となったが、第2四半期以降再び増収増益

(単位：百万円)

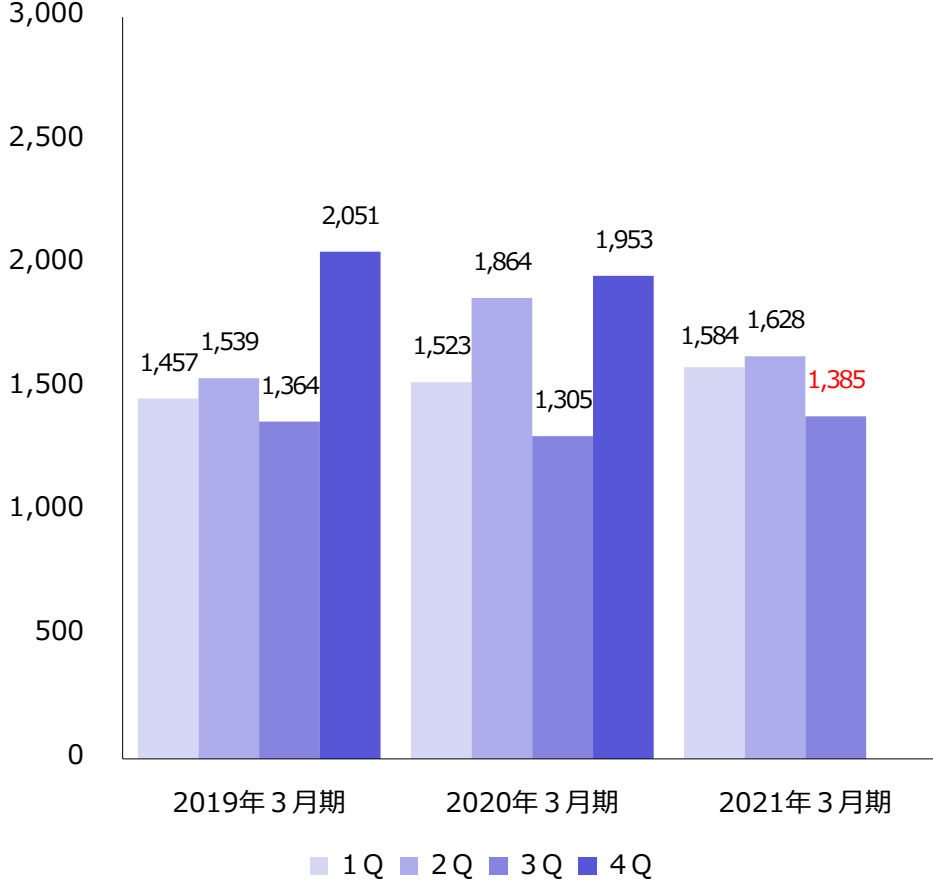


四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高

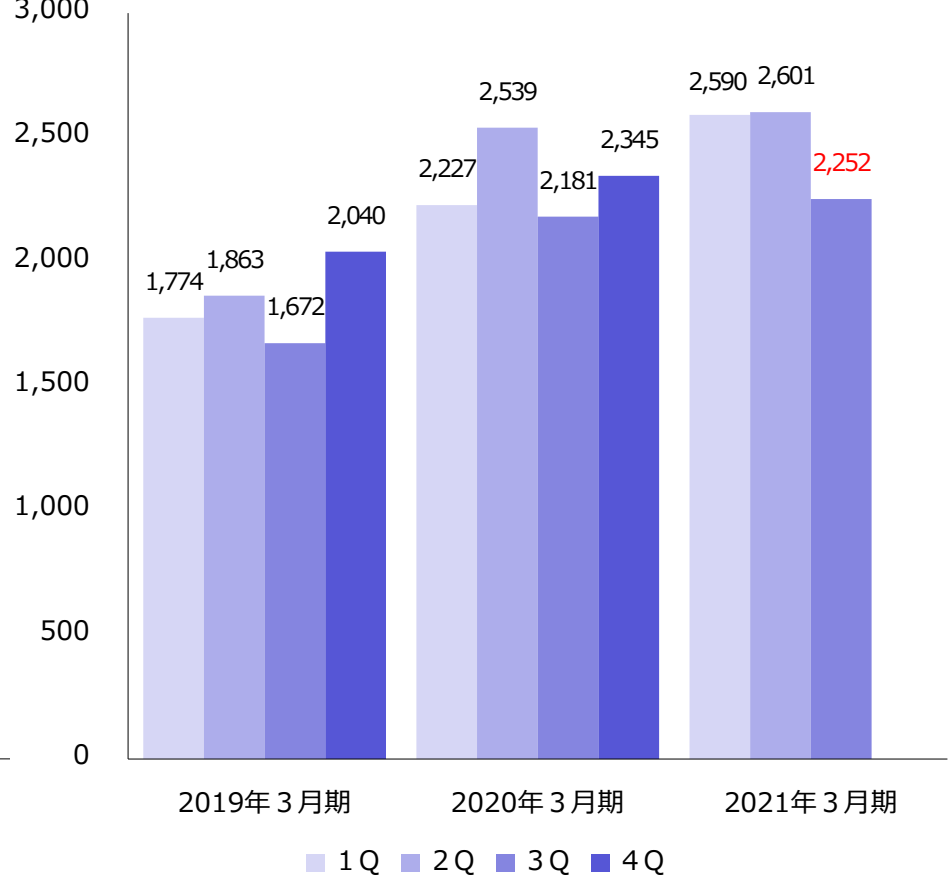
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



第3四半期BF別の状況

宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第3四半期		2021年3月期第3四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	955	21.0	729	15.5	76.3
インターネット	881	19.4	717	15.3	81.4
社会基盤システム	1,232	27.0	1,401	29.9	113.8
宇宙先端システム	1,484	32.6	1,842	39.3	124.1
合計	4,553	100.0	4,691	100.0	103.0

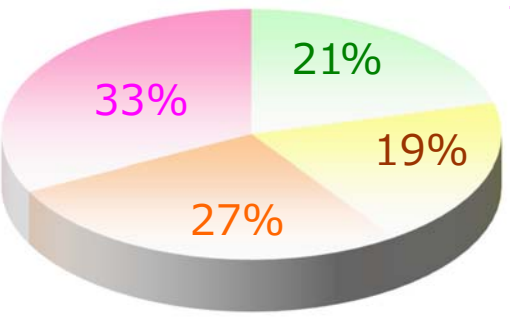
- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加したが、モバイル決済関連の開発案件が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少
- 社会基盤システムBFは、交通分野のモバイル決済関連の開発が減少したが、官公庁案件や医療分野の開発が好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

第3四半期BF別構成比

引き続き需要構造が変化し宇宙先端システムBFの割合が増加

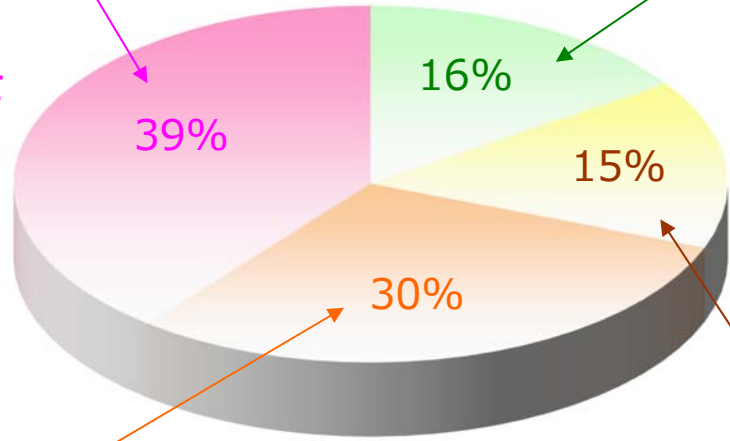
宇宙先端システムBF
車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調

モバイルネットワークBF
移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加したが、モバイル決済関連が減少



2020年3月期第3四半期

需要構造の変化に応じて柔軟に対応



2021年3月期第3四半期

社会基盤システムBF
交通分野のモバイル決済関連の開発が前期で終了したが、官公庁案件や医療分野の開発が好調

インターネットBF
民間企業向けの大型案件の開発が減少

第3四半期末のB F別受注状況

社会基盤システムが大幅に増加

ビジネスフィールド	2020年3月期第3四半期		2021年3月期第3四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	859	228	664	77.3	234	102.8
インターネット	923	315	739	80.0	314	99.8
社会基盤システム	1,189	1,047	1,391	117.0	1,151	110.0
宇宙先端システム	1,721	590	1,803	104.7	551	93.4
合計	4,694	2,181	4,598	98.0	2,252	103.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,606百万円、前期(1,521百万円)と比較し5.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、モバイル決済関連の開発が減少し、受注高は大幅に減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が減少し、受注高は大幅に減少
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や医療分野が増加し、受注高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボット案件が好調、宇宙天文分野の開発が堅調で、受注高は増加

2021年3月期 通期業績見通し

2021年3月期業績見通し

業績見通しは変更なし

(単位:百万円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,343	6,450	101.7
売上原価	4,568	4,670	102.2
売上総利益	1,775	1,780	100.3
販売管理費	844	860	101.8
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	920 (14.3%)	98.9
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	960 (14.9%)	96.0
当期純利益	687	670	97.4

10月26日に業績予想を修正した。第3四半期末時点では、通期業績見通しに変更はない。

2021年3月期B F別業績見通し

宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第3四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少し、全体では減少	↘	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が増加したが、モバイル決済関連が減少し、ほぼ予想どおりの展開	↘
インターネット	民間企業向けのWEBシステムの開発が、設備投資抑制により若干の減少を見込む	↘	民間企業向けのWEBシステムの開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	↘
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	↗	官公庁系や医療分野の開発が好調で、予想を上回る展開	↗
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、宇宙天文分野の開発も増加傾向にあり、全体で増加	↗	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調で、宇宙天文分野の開発も増加し、ほぼ予想どおりの展開	↗

ロボットビジネスの状況

実績 (2021年3月期第3四半期 売上高約1,260百万円
← 前年同期約998百万円 ← 前々年同期約819百万円)

車両自動走行は大幅増、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で前期比26%増

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの研究案件が大幅に増加
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信などのメーカーからの研究開発案件が堅調
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、
自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層は拡大傾向だが、中小型の研究開発案件が中心

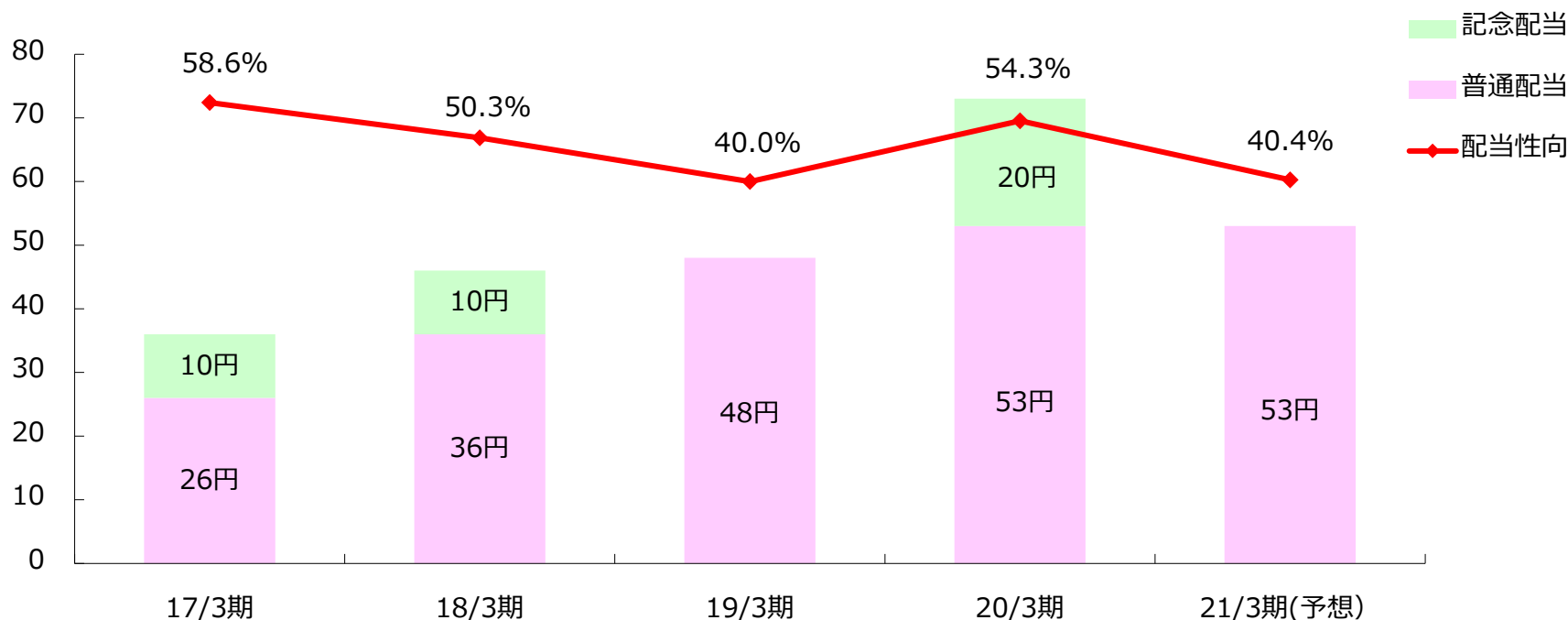
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2021年3月期は前期と同額の1株当たり53円の配当予想とする。



- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。